

[成果速報]

令和4(2022)年産いちごの生産状況全国調査結果

【背景】

栃木県のいちごは、収穫量 55 年連続日本一で本県農業の基幹作物です。いちご研究所では国内のいちごの生産構造を把握し、生産振興や販売戦略の資とするため、令和4(2022)年産いちごの生産状況全国調査を実施しました(表)。

【結果】

全国のいちごの作付面積は3,105haでした。都道府県別の作付面積は「栃木県」が最も多く、515haで全国の16.6%を占めており、主要10県で全国の約7割を占めています(図1)。

一方、各都道府県で主に作付けされている品種は80品種でした。品種別の作付面積は「とちおとめ」が最も多く、781ha(内栃木県417.5ha)で全国の25.1%を占めており、主要10品種で全国の約7割を占めています(図2)。また、本県で育成した品種は「とちおとめ」のほか、「とちあいか」53.4ha、「スカイベリー」35.4ha、「女峰」21.5ha、「なつおとめ」2.8ha、「ミルキーベリー」1.6haの6品種が作付けされており(「とちおとめ」「女峰」を除く4品種は本県のみで作付)、その総作付面積は895.7haで全国の約3割でした。

表1 調査の概要

調査時期	令和5(2023)年7月11日～8月31日
調査対象	各都道府県のいちご所管課
調査数	46(本県はいちご研究所で調査)
回答数(回答率)	46(100%)一部未回答を含む

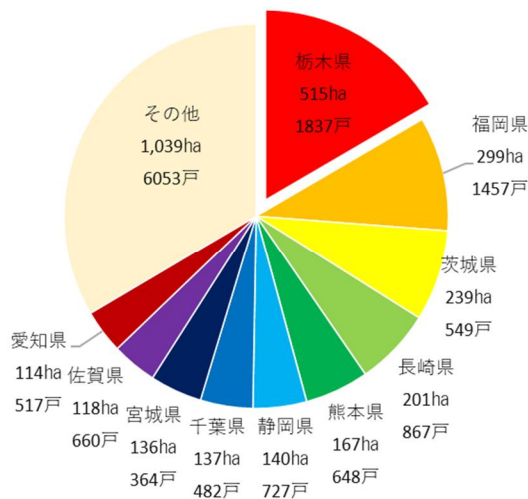


図1 全国のいちご都道府県別作付面積、経営体数
(作付面積上位10県)

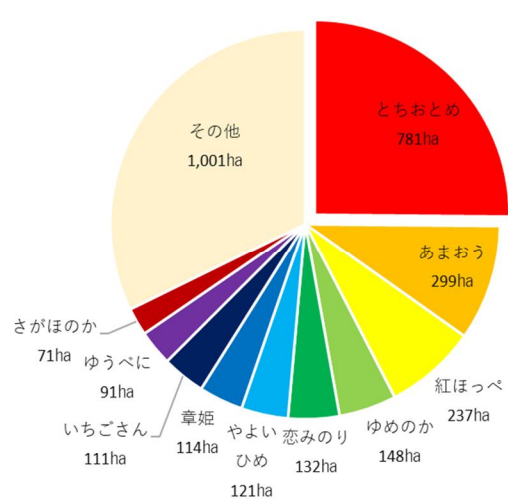


図2 全国のいちご品種別作付面積(上位10品種)
※農林水産省が公表する統計数値とは必ずしも一致しない。

※農林水産省が公表する統計数値とは必ずしも一致しない。

(いちご研究所 三井 俊宏)